

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年2月10日
函館市立戸井幼稚園・戸井学園

1 本年度の重点教育目標

「未来を創る戸井の子」
幼稚園：「ねばりつよく やってみよう」 戸井学園：「ともに学び 自分らしく輝く 児童生徒の育成」

2 本年度の取組の重点

- ①学習指導要領及び幼稚園教育要領に基づく12年間を見通した教育課程の編成
②幼稚園・戸井学園の教員の指導の連携
③知・徳・体・意の調和のとれた教育活動の推進
④学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくり
⑤幼小中一貫教育に向けた教育活動の具体的推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①教育課程（教育内容を示した教育計画）	幼稚園・戸井学園とも12年間を見通し「育成したい資質・能力」及び「目指す子ども像」を目指した指導計画の作成ができたか。	b	幼稚園・戸井学園それぞれの指導計画を持ち寄り共有し、改善する。	A	A	
	12年間を見通した幼稚園・戸井学園の連携した活動に取り組めることができたか。	b	園児と低学年の子どもとの交流はできた。次年度は交流の機会を増やす。	A	A	
②指導連携	学習面・生活面を中心とした幼稚園・戸井学園間での連携ができたか。	a	①に基づき、12年間のスパンで一層の連携を図る。	A	A	
	授業力・指導力の向上のため、互いの授業を見合うなどの研修を進めることができたか。	b	次年度は、合同研修のための時間を生み出し実施し、戸井地区の実践を積み上げる。	A	A	
③調和のとれた教育活動の推進	学力向上、豊かな心、体づくり、強い意志のバランスの取れた教育が計画・実施できたか。	b	それぞれでは知徳体意の教育を実施できたので、今後はつなぎ合わせて調和を図る。	A	A	
	キャリア教育の一貫性を目指し、地域に根ざした学習の整理ができたか。	b	①に基づき、未来を創る子どもの育成を目指した学習内容を見直し改善する。	A	A	
④一体となった教育環境づくり	各種教育活動に、家庭や地域の人的・物的教育資源を最大限に活用できたか。	b	学校運営協議会で教育資源を洗い出し、リスト化する。	A	A	
	学校運営協議会を活かした取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	a	今年度協議できた内容を次年度は実現させる。さらに、ご意見をいただき改善する。	A	A	
⑤幼小中一貫教育の推進	12年間の連続性を重視した「つなぐ」（人・学び・異校種のつながり）教育活動を展開できたか。	a	職員の意識改革を一層進め、12年間で子どもを育成する視点を強化する。	A	A	
	幼稚園・戸井学園における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	b	それぞれでは進めたので、共通してできる取組を実施する。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。